

入 選

きれいな水を届けるために

水戸市立第四中学校

一年 菊池 柚 希

みなさんは、「命の水が、命をうばう」ということを考えたことがありますか。私は、そんなことを一度も考えたことはありませんでした。

私は、小学五年生の頃に鴨川について社会で学習しました。鴨川には、よごれた時期があったのを知っていますか。今から50年ほど前、多くの家や工場は使い終わった水を川に流していたのです。高度経済成長の時代で、工場の生産が増え、生活の質が向上する反面多くのよごれた水が川に流れこんでよごれがひどくなるばかりでした。あぶく、においがある場所があちこちにありました。ですが、市、市民、職人さん、鴨川を美しくする会の取り組みのおかげで鴨川をきれいにすることができました。ここ

まででは、「命の水が、命をうばう」にはつながっていません。

みなさんは「四大公害病」というのを知っていますか。これは、日本の経済が大きく成長しはじめたころ、各地に公害が起き、多くの人を苦しめた病気です。水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそく、新潟水俣病の四つです。この病気は、一つの工場が流した有機水銀が魚に取りこまれ、それを食べた人や猫が病気になったようです。手や足がしびれたり、目や耳が不自由になったりした人もいます。これは大きな社会問題になりましたが、現在もまだ問題が残っています。

また、私はこのようなCMを見ることがあります。きれいな飲める水ではない水を飲んで死んでしまった妹がいるというCMです。私は、このCMを見て、「そんなことがあるんだ」と思い、インターネットで調べてみたことがあります。そこには、「どんなにきたなくてもこの水を飲むしかない」、「やっと思いで手に入れた水は、命と未来をうばう水」とかいてありました。その言葉がかいてある横の写真に

は、茶色くにごった水を飲む少年がいました。今、安全な水を手に入れない人は、世界で六億六千三百万人にのぼっています。そして毎日八百人もの子どもがよごれた水や不衛生な環境が原因で命を落としていきます。そこで、ユニセフは、世界中の村々が学校、保健センターなどに給水所を設置しています。ユニセフは、二千三十年までに世界中すべての子どもが身近な場所できれいな水が使えるようになることを目指しています。今、私たちにできることはないのでしょうか。その一つは、ユニセフ募金です。三千円の募金は、浄水剤七千二十五錠（三万五千百二十五リットル分）に変わります。三万円の募金では、せっけん、洗剤、貯水容器などが入った家庭用衛生キット四十人分に変わります。他にできることは、海、川、池、湖をよごさないことだと思います。私たちがよごすと将来、川などの水がよごれ、そのよごれにもし有害な毒が入っていたら、それを食べた魚を食べた人や猫などが病気になるってしまうかもしれません。そして「四大公害病」のようになってしまう可能性も0ではありません。それを防ぐ

ためには、みんながそうならないために生活することが大切です。

私たちの暮らしに「水」はかかせません。そんな「水」をみんなで大切にし、「命をうばう水」をなくす活動をたくさんしていきたいです。